

一月七日、今シーズン初の「コース開き」が行われました。

取材をした記者も、コース途中の百五十メートル地点から体験してみました。ソリの内側にあるグリップをしっかりと握つて仰向けになり、頭だけをつま先を見るようにして前方に傾け、体勢を整えます。指導員に「何もしなくともちゃんとゴールまで行きますよ。転んでもグリップから手は離さないでね」という説明に少々不安になりますが、恐る恐るスタート。

実際にコースの中に入るところはたから見ると違つて、そり立つ氷壁は圧巻。氷がゴトゴトとソリを突き上げる振動が背中に伝わり、ソリはまるで生きているかのように勝手にスピードを上げていきます。コーナリングでは、氷壁が波のように迫り、遠心力で体が斜めに傾きます。直線に入り、両側の壁にぶつからないよう足でソリの刃を内側に少し押して方向を調節し、ゴールしました。

競技では六百メートル地

◀足の位置はこのくらいで

## スリル満点 氷のジェット コースター



◀待ちに待った初滑り！

スピードは時速約二十キロ。車の運転と違い低い姿勢で滑走するので、体感スピードがかなりあります。しかしの恐怖感と、コースを一人で突き抜ける気持ちよさを味わいました。この日は、札幌リュージュスポーツ少年団の子どもたちが主役。みんなワクワクしながらソリを担ぎ、二百五十メートル地点からスタート。小学四年生の松本大くんは「スピードは全然怖くないです。体力を使うけど、ジェットコースターよりも面白いよ」と友達と夢中になつて滑つていまし

た。点からスタートするので、最大時速は約六十キロになります。「車やスキーなどが自分の操作で加速や減速をするのと違い、リュージュは一度コースに入つたら後は成り行きませ。どんどん加速していく爽快感がたまりません！皆さんもぜひ、体験してみませんか？」と竹田さんは話していました。

### 「藤野と札幌オリンピック冬季大会1972」展示会

藤野地区センターで、藤野地区町内会連合会が展示会を行います。ぜひご覧ください。

展示期間：2月10日(金)～24日(金)

場所：藤野地区センター内「ふるさとコーナー」  
(藤野2条7丁目)

お問い合わせ：藤野まちづくりセンター(☎591-7041)

★2月12日(日)午後1時30分より、当時活躍したリュージュ日本代表選手、小林優子さん(旧姓大高、愛称りんごちゃん)が当時の思い出などをお話しします。

### 藤野リュージュ競技場と札幌オリンピック

藤野リュージュ競技場は、日本初の競技場。1967(昭和42)年に素掘りのコースを作ったのが始まりで、翌年にはコンクリート製のコースを造成し、オリンピックに向けた選手強化に役立てられました。大会期間中は、手稲山の公式競技場の予備競技場として、また、出場選手たちの練習用として使用されました。



遊びに来ませんか？！

藤野リュージュ競技場では、滑走体験のほか、講習会やさまざまな大会も行われています。皆さんも一度競技場をのぞいてみませんか？

※スキーウエアなど暖かい服装でお越しください。

●お問い合わせ

札幌市藤野野外スポーツ交流施設(フizz)

(南区藤野473-1 ☎591-8111)



◀「気軽に来てください！」  
と竹田さん

※競技場については、本誌全市版18ページ「さっぽろおでかけガイド」も併せてご覧ください。

